

巻頭の言葉

新型コロナウイルスの感染が、社会を混乱させ始めたのは令和2年2月からで、いまだに収束が見通せない状況が続いており、大学は研究、教育、学務の全てに大きな影響を受けています。令和2年度の苦心惨憺の経験を基に、新型コロナウイルスの早期収束を願いつつ令和3年度がスタートしましたが、コロナウイルスは変異を伴って第4波、第5波と感染が拡大し、夏には緊急事態宣言が21都道府県に、まん延防止等重点措置は12県に発出される事態となり、各地で医療体制が深刻な状態になりました。緊急事態宣言、まん延防止等重点措置は9月末で解除されたものの、第6波への心配は続いており、社会の正常化はまだ先のようです。

大学はオンライン授業と、一部で対面授業を行っていますが、大学らしいキャンパスの賑わいが戻りません。国立公園に関係する教育では、研修準備が整ったものも、緊急事態宣言下では実施を見送りましたので、国立公園現地での体験学習に影響が出ています。

国立公園研究所の活動も、例年駒木学習センターと共同で行う国立公園をテーマにした講座やセミナーが開催できない状況になっています。研究活動に関しては、成果を国立公園研究所年次報告刊行に向けて準備を進めてきました。

研究所年次報告は、今年度第6号の刊行です。編集は、論文・論説・研究報告等に「磐梯朝日国立公園の磐梯・吾妻地域と猪苗代湖地域の国立公園指定の道程に関する考察」、「アイルランドの国立公園制度について～キラニー国立公園成立の背景～」、「日本と台湾における環境教育法制の運用をめぐる課題と展望－比較研究にむけた予備的検討－」、「自然公園法の制定時における検討の諸要素について(予報)」、「国立公園の利用者増に向けた方法論的原理の検討－「場所の記憶」をどのようにつむぐか－」の5編、国立公園の専門誌「国立公園」へ連載している「江戸川大学国立公園研究所から」の記事9編、昨年11月開催の大学祭「2020オンライン駒木祭」へ、国立公園研究所が参加したプログラム「国立公園映像コンサート」に対する『報告「オンライン国立公園映像コンサート」の制作』を中心に行いました。

「国立公園映像コンサート」は、ピアノ、バイオリン、ビオラの演奏に合わせて、日光国立公園など東日本にある国立公園の美しい風景を紹介して、鑑賞した方々から大好評をいただいたものです。「国立公園映像コンサート」の映像は、国立公園研究所ホームページでご覧いただけるようになっています。

年次報告第6号をとおして、江戸川大学国立公園研究所の活動をご理解いただくことができれば幸いです。

令和3年10月

国立公園研究所年次報告編集委員長

油井 正昭